

年頭のあいさつ

代表理事組合長 中條秀二

組合員・利用者の皆さまにおかれましては、令和3年の新春をつつがなくお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、令和2年の国内経済は、新型コロナウイルス感染症に振り回され、企業収益の大幅な減少・観光関連事業の低迷・個人消費の落ち込みなど、非常に厳しい状況が継続した1年となりました。

農業面でも、インバウンド需要の低迷による農畜産物価格が下落しました。また、集中豪雨や台風襲来による自然災害の多発は、農産物や農業関連施設に大きな被害を生じさせ農家・組合員への影響は深刻なものとなりました。

国際貿易交渉では、TPP11や日欧EPA等の大型協定の発効に続き、9月には日英貿易交渉が大筋合意しました。併せて、日米貿易交渉の第2ラウンドが現在交渉中でありますので、その動向に注視するとともに、政府・与党に対し更なる国内対策の充実強化を徹底するよう求めてまいります。

一方、2022年開催の第12回鹿児島全共に向けた対策では、あいら地域全共出品対策協議会がコロナ禍の中でも実施できる集合研修会を2回開催するなど関係機関が一体となった出品対策を講じました。さらに、2020年全国茶品評会において霧島市は惜しくも「産地賞」の4年連続受賞を逃しましたが、個人部門ではJAあいら管内の生産者が多数上位入賞を果たしました。

次に、農協改革集中推進期間が終了したJAグループの自己改革については、農水省から一定の評価を受けましたが、信用事業をはじめとして経営環境が厳しさを増すなかで、地域農業を支える「農協経営の持続性の確保」が強く求められています。

JAあいらでも、地域に無くてはならないJAになるため、新体制による組織整備審議会を立ち上げ、支店支所再編の基準策定や経済事業収支確保に向けた再編整備の協議を進めています。令和3年度事業計画に組み込む所存でありますので、皆様方のご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、准組合員事業利用規制は、令和3年3月末までの調査結果に基づき結論が出されることとなっています。JAあいらは結果に関わらず、「変えるべきは変える、変わるべきは自ら変わる」とする自己改革の実践を継続します。そして、「霧島市・始良市・湧水町との連携協定」や「商工会議所・商工会との事業連携」による地域活性化に向けた取り組みを強化して参ります。

最後に、2021年が皆様にとって幸多い年となられますことをご祈念申し上げます。年頭に当たってのごあいさつといたします。